

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○漢字の書く問題(「好み」「暑い」)等の正答率が全国平均と比べて3ポイント高い。一問一答式の正答率が高い。 ●「書き抜きましよう」「あなたが～さんなら…」といった書く問題の正答率が低い。長文の問題に回答する問題になると正答率が低くなる。	・漢字会という漢字学習の定着をはかる取組を学校全体で行っている成果が出ていると考える。 ・長文や初読の文章を読む力が弱い。そのため、読み聞かせを増やしたり、初めて読んだ文章の感想を書かせたりといった取組を考えている。
算数	○分数の足し算の計算は正答率が88.4%、その他の面積を求める問題など単純な計算の正答率は全国平均を上回る成果が出ている。 ●面積を求める理由を聞いたり、なぜそうなのか、と書いて説明したりする問題になると全国平均よりも低くなっている。	・単純な計算力や基礎的な学力は、計算会という学校全体の取組の成果が出ていると考える。 ・数学的なものの見方はできているので、授業を通して、どうしてそうなるのか、ということを書く時間を授業の中で設ける。
理科	○蒸発に関する用語や穴埋めといった単純な一問一答形式の問題は全国平均を2.1ポイント上回っている。 ●ヘチマの成長や乾電池の並びについての思考力を問う応用的な問題は正答率が低い。	・学習に対する知識量はあるので、今のまま授業を進め、教科書にある理科の用語をきちんと教えていく学習を進めていく。 ・応用的な理科の実験や発展的な学習を増やし、理科への興味・関心を高めていく。

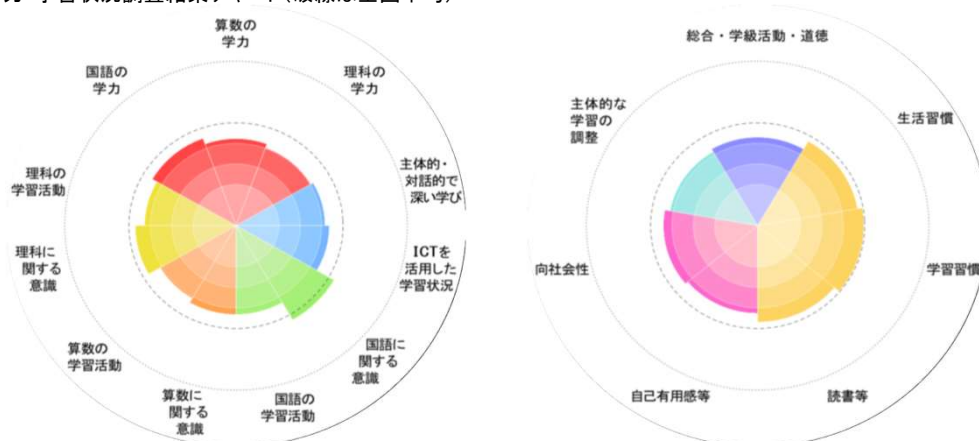
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○家庭での学習時間は全国平均と変わらず、学習習慣は身につけていると考える。一方、学習する児童とそうでない児童との差があることが課題である。 ●メディアとの接触が児童によって大きく差があり、メディアに触れる時間が長い児童に学力や学習意欲が低い傾向がある。	・学習習慣の大切さを話すとともに、メディアとの付き合い方を指導していく。 ・ひとりひとりの学力保証を大切にしながら自己有用感を高めていきたい。

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・学習したことを、自分の言葉でまとめたり伝えたりする学習を増やしていく。 ・授業の中で、自分の言葉で理由を書く時間を設けていく。
------	---

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

99

名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

